

座談会

「歌は世につれ…」歌姫4人が語る 「音楽人生」& 曲の「ちから」

すすきのにとって酒と歌が、欠かせないの言うまでもない。

そこでネオンの舞台を演出する歌姫4人に、音楽にかける人生観や歌が持つ魅力について語ってもらった。

〔ジャスマックプラザ〕で収録

「替え歌」でチップ舞う

— 歌を始めたきっかけは？

岩崎 母はピアノが得意でしたが、私は向いてなくて。母は仕事で忙しく、私は祖母に付いて老人クラブでやっていたことを一緒に…。

エスミ えっ、そうなの。

岩崎 4歳から11歳まで詩吟や民謡、日本舞踊を。あとゲートボールやマージャンも(笑)
NORI 私の父は建築の商売やっていて私は4、5歳の頃から父

の晩酌で歌っていました。

荒木 どんな歌を？

NORI 父のリクエストで美空ひばりの演歌とか、都々逸とか。本当はピンクレディーとか、歌いたかったんですが。私の歌を聴くと家族が笑ってくれるので楽しかった。

エスミ 私は実家が農家で、自宅にはラジオとギターしかなく、父はギターを弾いて母とデュエットしていました。

ミュージックパブ「ほくもに」
岩崎 美保さん

「ソングバード」
エスミさん

「ナイトイン21世紀」
NORI (逢見則子)さん

荒木歯科医院
mami ko grace
(荒木麻美子)さん

岩崎 フィリピンの歌を？

エスミ いいえ。フィリピンはアメリカの占領下の歴史があつて、私が生まれる前は、フィリピンの歌を歌っちゃダメという時代もあったんです。ラジオから流れる曲は、アメリカンポップス、父母が歌うのはスペインの曲でした。
NORI 大変な時代でしたね。

エスミ はい。その頃聴いた曲を覚えていて、16、17歳の頃、歌のア

ルバイトを始めたのが

きっかけです。ギターでアメリカンポップスの「カントリーロード」とか、歌っていました。

荒木 私の場合、祖父も父も歯科医で、祖父が詩吟の先生、父は「ドクターサンズ」というバンドを組んで診療所の待合室で練習したり…。
NORI 私たちは皆、家庭の影響が大きい。

荒木 はい。私も小さい頃から『北上夜曲』とか古い曲を覚えました。
NORI 秋田音頭で

芸者遊びのエッチな替え歌があるんです。それを父が歌っていたのを覚えていて私、秋田県のデイナーショーで歌ったんです。

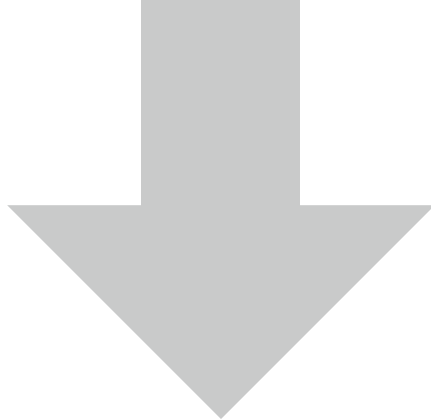
荒木 ウケたでしょ。

NORI はい。地元の人が言うには、その歌は替え歌で唯一、無形文化財になっていると。歌った途端、チッ

プが舞いました(笑)
荒木 うわあー。

NORI 父の歌がこんなところで役に立つとは、驚きでした。





続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)